

現状と課題

<津波を防ぐ対策>

- ★防潮堤等海岸保全施設の整備進捗
 - 第 3 次地震被害想定に対する未整備箇所が存在（進捗：海岸 9 割、河川 5 割）
- ★東日本大震災の教訓
 - 東日本大震災で、一定の防護効果は認められつつも施設が壊滅的被害

<津波に備える対策>

- ★避難場所の確保
 - 地震発生から 5 分 500m 以内で避難できる場所が必要
- ★避難路の確保・整備
- ★被害想定の見直し
 - 発生の可能性のある最大クラスの地震(南海トラフの巨大地震)に基づく、甚大な被害をもたらす最大クラスの津波の想定

<津波から逃げる対策>

- ★迅速・的確な情報伝達、避難誘導
 - 防災無線、テレビ、ラジオ、携帯電話などあらゆる手段を使っての情報伝達
 - 海拔標識、避難誘導標識
- ★津波に対する防災意識の向上
- ★被害状況、避難状況、安否確認

取組と成果

- ★ふじのくに津波対策アクションプログラム
 - 短期対策編作成

<津波を防ぐ対策>

- ★防潮堤等海岸保全施設の緊急点検、緊急整備
 - 施設の高さ、連続性、構造、背後地の現況を把握
 - 水門、陸閘、樋門の可動状況点検
 - 第 3 次地震被害想定に対する未整備箇所の補正予算等による緊急整備（河川堤防嵩上げ、漁港の胸壁整備）

<津波に備える対策>

- ★津波避難ビル等の指定促進
 - 津波避難ビル数 508 棟から 1,197 棟へ倍増
 - 津波避難タワー 4 基建設される 7 基から 11 基へ増
 - 東名のり面の利用や「平成の命山」の建設計画
- ★避難路の確保・整備
 - 土砂災害防止施設脇の緊急避難階段の設置、校舎屋上への避難階段の設置
- ★第 4 次地震被害想定プロジェクトチーム発足

<津波から逃げる対策>

- ★迅速・的確な情報伝達・避難誘導
 - 沿岸 20/21 市町でエリアメール導入
- ★津波避難誘導標識等の設置
 - 海拔標識を中心に津波避難誘導標識等が、約 3.8 倍の 11,706 基に増
- ★防災訓練や講演会等の開催
 - 緊急津波避難訓練等津波対策訓練の実施
 - 沿岸 21 市町で 840 回以上に及ぶ講演会等の開催
- ★監視カメラによる監視強化
 - 公共機関所有カメラの危機管理センターへの接続

今後に向けた課題

- ★ふじのくに津波対策アクションプログラム
 - 進捗管理
 - 中長期対策編作成

<津波を防ぐ対策>

- ★防潮堤等海岸保全施設の整備方針の決定と早期着手
 - レベル 1 津波の検討結果を踏まえた施設高の決定
 - 最大規模の津波に対して、越流は許しても粘り強く破壊されない設計基準の確定
 - 新たな整備に必要な財源の確保

<津波に備える対策>

- ★更なる避難場所の確保
 - 津波避難施設空白域の解消
 - 構造上の要件に係る指針に基づく既指定の避難ビルの検証
 - 避難路、避難地、避難所の安全性の確保
- ★災害時要援護者の避難支援
- ★想定対象津波の設定（特に伊豆半島東海岸）

<津波から逃げる対策>

- ★迅速・的確な情報伝達・避難誘導
 - エリアメールの導入促進
 - 津波避難誘導標識設置の促進
- ★意識調査等の結果を受けた施策の展開
 - 住宅の耐震化と家庭内対策の推進
 - 啓発活動の継続
- ★被害状況・避難状況・安否確認の把握
 - 津波危険区域における監視体制の強化